

馬の鼻出血について

浦河診療所 櫻井 健太郎

昨年4月に入社し、現在浦河診療所で働いている櫻井 健太郎（さくらい けんたろう）です、よろしくお願ひします。今回は馬の鼻出血について書かせていただきます。

馬の鼻出血は、片方の鼻孔から数滴流れるものから、両方の鼻孔から大量の血液が流出するものまで様々です。鼻出血の一般的な発生源としては、上気道、下気道、副鼻腔、および喉嚢が含まれ、複数の発生源から出ていることもあります。

馬の鼻出血の多くは、頭部の外傷であり、頭をぶつける、蹴られるなどの鈍的外傷により、副鼻腔に出血を引き起こし鼻孔から流血します。また血管と神経を破壊する喉嚢炎（喉嚢真菌症）は、大量出血による失血死を引き起こす可能性があります（写真1）。他には感染による副鼻腔炎、運動誘発性肺出血、または進行性の篩骨血腫（写真2）などでも起こります。外見だけで原因を特定するのが難しい症例は、内視鏡検査やレントゲン撮影などで診断を行います。



写真1：喉嚢真菌症による激しい鼻出血
引用：馬の真菌症（第2版）

治療は、出血の原因によって異なります。軽症の場合のほとんどは治療の必要はなく、馬を落ち着かせて休ませれば大丈夫です。馬は鼻孔からのみ呼吸をするため、人間のように脱脂綿を鼻孔に詰めて出血を止めようとはしないでください。冷たいタオルや保冷剤を目の下に当ててあげると良いかもしれません。喉嚢真菌症は、緊急性が高く手術による動脈の結紮や閉塞が必要となります。感染による副鼻腔炎は、抗生物質の投与と症状によっては手術（円鋸術など）を行いません。篩骨血腫は、レーザー治療、血腫内ホルマリン注射、または外科的手術を行います。

ほとんどの鼻出血は軽度であり、出血が少量または15分以内に治まります。ただし、出血量が多い場合や、数日間出血を繰り返す場合は、原因を特定し適切な治療をする必要があるため、速やかに獣医師に連絡してください。

最後までお読みいただき、ありがとうございました。



写真2：内視鏡による篩骨血腫
引用：Atlas of EQUINE ENDOSCOPY